

2018年（第17次）樹勢調査結果 速報

2018年9月 名勝小金井桜の会 事務局

始めに

本年も2002年（平成14年）の第1回調査以来17回目となる、名勝小金井桜の毎木樹勢調査を実施しました。 今回も予算の関係から、協力をいただいて来た「東京樹木医プロジェクト」の樹木医の方々の参加はなく、桜の会会員のみで昨年と同様の調査法に「幹周り記録」を5年ぶりで追加しました。

詳細の調査データは当会のホームページに掲載します。 調査概要をここに速報版として作成しました。

1 調査日と調査メンバー；

（アンダーラインはブロックリーダー）

第1ブロック：8月18日

石田精一、石田いく子、田嶋清一、三宅章

第2ブロック：7月31日、8月11日、8月18日

小迫悦子、小迫邦彦、池和子、竹前直子、児島秀治

第3ブロック：8月18日

岩間博昭、村山秀貴、本橋一夫

第4ブロック：8月18日

小沼廣和、日並洋一、杉本和子、小林由美

第5ブロック：8月18日

植竹隆夫、杉山利男、渡辺ふき子、小林まさき

合計 20名

2 調査方法； 昨年と同じ（東京樹木医プロジェクト指定の調査票にて評価）

3 調査風景とトピックス写真；



調査風景；第1ブロック



調査風景；第2ブロック



調査風景；第2ブロック
柵越えの勇姿！



調査風景；第3ブロック



調査風景；第5ブロック

4 調査結果の概要；

ブ ッ ク	2017年 総合評価ラン ク				計		2018年 総合評価ラン ク				計		本年枯死	備考
	1	2	3	4			1	2	3	4				
	状況が良い ⇔ 状況が悪 い						状況が良い ⇔ 状況が悪 い							
1	0	3	93	16	112		0	4	101	7	112		#116	枯死寸前 #1001
2	16	54	72	3	145		16	60	67	1	144			枯死寸前 #923
3	27	87	9	0	123		105	33	0	0	138		KS44(H29) S408H19) KS6(H26)	枯死寸前 KS43(H29) KS6(H26)
4	138	29	24	10	201		123	40	19	20	202		#363、S5 #752	枯死戦前 #352,#356,#374, #376,#380,#387, #390,#393, #404, #684,#685,#702, #707,#714,#720, #722
5	45	27	42	14	128		46	22	39	18	125		#442 #465 #645	枯死戦前 #444,#465,#631, #638,#645
合 計	226	200	240	43	709		290	159	226	46	721		10本	
比 率%	31.9	28.2	33.9	6.0	100		46.2	22.1	31.3	6.4	100			

詳細データは「名勝小金井桜の会ホームページ」を参照してください。 URL：http://koganeizakura.com

5 調査参加者の感想・コメント；

*第1ブロック：石田精一

午前 9 時小桜橋を起点に右岸を上流側に向かって調査を開始した。喜平橋で小休止後折り返して左岸に入り 12 時過ぎ小桜橋で午前中の調査を終えた。付近のレストランにて約一時間、昼食・休憩後、左岸を茜屋橋へ向かって調査を行い、次に茜屋橋で折り返し右岸に入り小桜橋に到着して午後 3 時頃調査を終了した。昼食場所の関係で変則的な経路になったが、調査所要時間は昼食・休憩を含み 6 時間であった。

第 1 ブロックは茜屋橋付近の右岸のごく一部以外は両岸とも小平市域である、柵外の緑道部分は 7 月中に除草が行われたが柵内は高木・中低木・草本とも繁茂している。

ブロック内のサクラの古木は次第に数を減じ比較的樹齢の若いサクラが中心となっているが、若いサクラにも衰えがみられる。 今年 は #116 が新たに枯死した。 また #1001 は主幹が枯死状態となり支幹が代わって成長している。

今年 は昨年と一変してコスカシバの被害が著しく減少した。また葉の食痕も減少した。キノコについても新しいキノコの発生は見つからなかった。



#1001
主幹が枯死



#118 に着生した
ヤドリギ



#102
カワラタケ



#102
サルノコシカケ

樹勢調査は昨年のデータを参考にしながら今年の状況を観察し評価した。

- ① 生育環境：日照不足、土壌の固結、根系伸長制限はいずれも改善はみられず、日照不足が昨年より悪化した樹がみられた。
- ② 樹木の生育状況：梢の枯れは数値が下がった、枯れ枝の剪定が影響していると思われる。
- ③ 病虫害：コスカシバ被害樹は昨年に比し激減した。昨年の被害樹率は 86%であったが今年は23%まで減少した。またランク4以上の被害樹は昨年の32樹から2樹に減少した。
- ④ キノコ類：サルノコシカケ、ベッコウダケがわずかではあるが認められた。
- ⑤ 総合評価：コスカシバの減少により評点が低下し他の項目でも低下があり全体としての評価は改善した。ランク4は昨年の16樹から7樹に減じたがその分ランク3は昨年の93樹から101樹に増加した。

所感：年々サクラ以外の植生は益々その勢いを増している。これに対してサクラは次第に勢いを失いつつあり、比較的若いサクラも生育に衰えがみられるものがある。上水の水路内に生育している広葉樹高木類を一日も早く除去してサクラの生育環境を改善する必要がある。

なお平成29年度に補充された新しい樹番号札が従前の番号と整合していないものがある。

第1ブロックでは左岸に#144-1が新設されたが一方、#147が消滅した。右岸のソメイヨシノ群にも番号の混乱がある。調整が必要である。

*第2ブロック：小迫悦子

本年は樹周計測も加わったので例年にも増して時間がかかるし、まれにみる酷暑だから無理をせず3回に分けて調査を実施することにした。(7月31日樹周計測、8月11日左岸実施、8月18日右岸実施)

8月18日(土)早朝7時に小金井橋集合で始める。時間を早めたおかげで予定より参加者が増え、池和子さん、竹前直子さん、小島秀治さん、小迫邦彦・悦子の5名の参加となり大変心強い。特に初めて第2ブロックに来て下さった小島さんは身軽で、柵内の桜樹の樹周計測を担当して下さり本当に助かった。

今までは小迫邦彦さんの仕事だったが、昨年末の怪我以来杖に頼る身では柵内に入れないからどうしようと悩んでいたのだった。多分事情を察して事務局の方々がご配慮下さったのだらうと感謝する。



左から池和子さん、竹前直子さん、小迫悦子、小島秀治さん（小迫邦彦 撮影）

今年は酷暑だったからか全般的にキノコが少なく、コスカシバは激減と言ってもいい。柵内の雑木の伐採や剪定も功を奏しているようで日当りのよくなったものも有る。おかげで昨年より全般的に評価の点数が良くなり、評価のランクも上がったものが有る

（評価2が7本増え、評価3が6本減り、評価4が枯死1本含むものの1本減った）。

とは言え、枯れた大枝伐採があつての点数も有るので桜樹そのものの状態が良かったわけではない。1本1本を見ると幹や根元の腐朽は進み、主幹をバッサリ切られた桜樹まで見られ目を覆いたくなるものがあった。



右岸の遊歩道は整備されていて清々しく、すれ違う散歩中の人たちも心地よげで、私たちに声をかけ樹勢調査だと聞いてご苦労様と労ってくれた。



幹、根元の腐朽 No.252

No.240

No.227



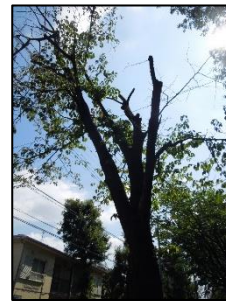
No.238 幹の腐朽、根元の腐朽とヒコバエ



No.955 のコフキサルノコシカケ、樹上は枯れ幹も痛々しい



樹上が枯れた No.226



No.211



No.181



No.272 の蟻巣



No.226 の蟻巣



下草に隠れた N62



No.942 についていた虫



No.201 のシイサルノコシカケ



No.899 のベッコウタケ



青テープの巻かれた桜樹 No.228



赤テープの巻かれた柵内の雑木

＊第3ブロック：岩間博昭

2018年18日 会員；村山、本橋、岩間の3名で例年の基準で調査を行った。
今年も幹周りの測定も実施しました。 猛暑が続く中、今日は暑さが緩み順調に調査を完了しました。

酷暑というほどの暑さではなく、毎年、参加している第3ブロックを気持ちよく調査でき、当初予定よりも短時間で終了できた。今年も昨年と比較してキノコの被害が少なかった。

一方で、近年に補植した苗木の枯死が目立った。 補植期間を5年以上経過し立派に根付いたと感じていた樹木が枯死してしまったのは大変ショックである。

あまりにも日頃のケアが不十分であり、あらためて対応策を考えなければならないと強く実感した。
また、幹周りの計測は初体験だったがメジャーを次回以降は忘れずに持参するようにしたい。(村山 記)

今回の調査結果の特徴について；

- ① 生育環境；いずれも大きな変化はないが、日照不足が若干改善されたようです。
プレートのないものが見られた。
- ② 樹木の生育状況；梢の枯れ、葉の小型化が見られた。蔓草が多数発生していた。
- ③ 幹・根元の腐朽；幹の空洞が見られたが、特に変化は見られなかった。
- ④ 病虫害；特に見つからず。
- ⑤ キノコの被害；猛暑で乾燥したのか、コケの少なく、被害は少ない。
- ⑥ 本年の枯死木；3本 KS44 (H29 年植樹) KS6 (H26 年植樹) S40 (H19 年植樹)
右岸で環境は良好なのに日常管理不良のため、大きな損失。
- ⑦ 幹周りの計測；計測ポイントのバラツキあり、前回より数値減少の例あり。



#284 サクノシカケ



KS43 枯死寸前本年植樹の若木



#308 ヒコバエ大成長

*第4ブロック：小沼廣和

今年の異常気象による連日の40度を超える酷暑の中、2018年8月18日(土)午前9時から名勝小金井桜が所在する小金井市域である喜平橋から梶野橋間の樹勢調査を5ブロックに分け、総勢23名の会員により一斉に調査を行った。

我が第4ブロックは新小金井橋から関野橋間(小金井桜復活モデル地区)を日並・杉本・小林・小沼の4名で、午前9時から12時10分酷暑の中、227本の小金井桜育成環境の樹勢調査を行った。

今回は、過去3年間「育成環境の改善」を東京都教育庁・水道局・小金井市に改善を要求してきた項目について履行状況を明らかに、今年度事業としてその改善実施することを強く要求する項目を指摘し、感想とする。

1 小金井公園桜守の会から寄贈された寒緋桜とヤマザクラとの自然交配?により2月末に開花する4本の移植要望

名勝小金井桜復活植樹苗は系譜の正しいヤマザクラに限定されており、過去3年N17・N20・N26・S27の植替えを要望しているにもかかわらず放置されたままであり、4本とも発芽後10年を経過し、移植に多大な費用を要する状態である。

2 玉川上水堤の下草除草作業のスケジュール調整

フェスの内側は都水道局、小金井桜のヒコバエ除去等の育成管理は都教育庁、五日市街道側歩道は都建設局、上水通りの緑道は小金井市、の役割分担になっているが、その日程調整が図られず相変わらずバラバラに実施している

春の除草作業日程・・・桜の開花終了後～ゴールデンウィーク前 ⇒4月20日～4月30日まで

夏の除草作業日程・・・ノカンゾウの開花終了～ ⇒7月20日～7月31日まで

秋の除草作業日程・・・曼珠沙華の開花終了～ ⇒9月20日～9月30日まで

統一して実施。

3 古木の枯死状態・植樹苗枯死及び成長不良苗の新たな補植及び伐採の実施

フェンス内の後継樹が枯死し伐採されたN30・S35、今年突然枯死したS5、フェンス内の古木で枯死状態及び伐採済みの756・740・722・720・714・695・692、フェンス外の枯死状態古木352・356・363・372・376・380・387・390・393・405・752の伐採、及び成長不良のN18・N19の合計23本を今年度事業として行う。

4 後継樹植樹苗の玉川上水堤フェンス内への植樹後の育成管理

名勝小金井桜は国の名勝天然記念物に指定され、管理者として東京都が国の交付金を受けてその管理と報告事務を担っている郷土の歴史的文化遺産である。東京都が策定した「玉川上水整備活用実施計画」に於いても地元自治体4市と市民団体によるコラボレーション事業として名勝小金井桜を次代に適切に継承する事が明文化されている。

都教育庁は、管理者として桜の育成管理に精通した樹木医の助言を仰ぎ、その維持管理を専門の造園業者に業務委託しており、定期的に文化庁に対し名勝としての現状を報告していると思われるが、私たちの調査によると、開花後の「お礼施肥」、ヒコバエ等の剪定作業、雑木の伐採・枯れ枝、キノコ類の除去・害虫駆除等の作業が適切に行われているとはいいがたい現状になっている。契約業務に伴う、「仕様書」に明記されている業務内容について情報公開等を求め、検証する必要性がある。

まとめ

自然に繁茂し、桜の成長を妨げているケヤキ等の雑木伐採を「生物多様性」を尊重する立場から異議を唱える市民団体が少なからずいる中で、江戸100万市民の命の水として支えた「史跡玉川上水」の遺構と共に280年の歴史を誇る郷土の歴史的文化遺産である「名勝小金井桜」を次代に適切に継承し、かつての玉川上水堤のヤマザクラ並木の下に四季折々の武蔵野の野草が繁茂し、可憐な花を咲かせた生物多様な武蔵野の原風景を再現するため、そのあるべき姿を内外にアピールすることを目的とした新小金井橋から関野橋間の「モデル地区」の現状は余りにもお粗末で、異議を唱える団体が主催したシンポジウム参加者の感想として「玉川上水は人工的なものですが、多摩の山の生物を武蔵野の原野に橋渡しする貴重な役割を果たしていること。小金井桜の並木の復活は非常に微妙。非常に有意義なシンポであった。これを受けて私たちも議論を始めたいと思う」等のご意見があることが公開されており、私たちはケヤキ等の桜の成長を阻害する雑木を伐採し、小金井桜並木が再現されてよかったと評価されるよう、このモデル地区をはじめとする小金井市域3kmの玉川上水兩岸にかつての名勝小金井桜を再現されるよう東京都・小金井市・当会との協働事業として役割分担を明確にし、進めていく必要があると再認識された今回の樹勢調査でした。

*第5ブロック：植竹隆夫

8月18日、記録的な猛暑が幸いなことに一時的に和らいだこの日、会員の杉山利男、渡邊ふき子、小林まさき、植竹隆夫の4名で第5ブロックの樹勢調査を行った。午前9時に関野橋に集合して左岸を下流に向かって幹回りの計測も含め調査をスタート、梶野橋下流の横断歩道橋で右岸にわたり引き返して関野橋に戻り、午前11時半に調査を終了した。

この第5ブロックは平成26～28年度の3年間、小金井市主導での小金井桜復活事業として関野橋～梶野橋間のヤマザクラ苗木補植と周囲の雑木伐採が行われた区間(武蔵野市域を含む)であり、この間に我々の会が育てた苗木が計46本植樹されたが、全てが枯れることなく概ね順調に生育していることが確認できた。但し昨年6月に水不足で葉が萎れ枯死寸前だったKS30(H29.3月植樹)については、後遺症が残り主幹上部が枯れておりケアが必要である。

今年は幹回りの計測を実施したので、植樹したときとデータを比較してみると

平成26年度 (H27.3月) 植樹 18本 幹周：17.2～19.6cm(Av18.3cm)について》

左岸 12本 幹周：25～36cm (Av29.8cm) うち 25×2、27×1 成長量：3.3cm/年

右岸 6本 幹周：23～40cm (Av33.3cm) うち 23・28×1 成長量：4.3cm/年

《平成27年度 (H28.3月) 植樹 10本 幹周：18～22cm(Av19.8cm)について》

左岸 7本 幹周：23～32cm (Av28.1cm) うち 23・25・28×1 成長量：3.3cm/年

右岸 3本 幹周：28～32cm (Av30.0cm) うち 28×1 成長量：4.1cm/年

《平成28年度 (H29.3月) 植樹 18本 幹周：15～23cm(Av17.8cm)について》

左岸 10本 幹周：21～29cm (Av25.3cm) うち 21・25×1、22×2 成長量：5.0cm/年

右岸 8本 幹周：22～30cm (Av26.6cm) うち 22×1、25×2 成長量：5.9cm/年

植樹した際の幹回りデータがどの樹木ナンバーのものか個々の対応が取れないので直接的な比較はできないが、概括すると

① 桜樹個々の個体成長差が極めて大きい。

平成26年度(H27.3月)植樹後3年半で幹回り40cmに成長した関野橋右岸のKS21のような桜樹もあれば、そのすぐ近くで23cmにしか育っていないKS23のような個体も見られた。成長が芳しくないものを上表に示したが各年度3～4割程度であり、右岸(南側)と左岸(北側)の差は明確ではない

② 右岸(南側)に比べ左岸(北側)の成長が遅い。

上表で明らかなように、各年度とも右岸(南側)に植樹した苗木の方が、成長量が大きい。成長に必要な日照の関係かと思われるが、植樹に際して日照の妨げとなる左岸(北側)の苗木の周囲の雑木はキチンと伐採されており、確たる原因は判らない。

一方で既存樹については、新たな枯死木が3本(左岸2本、右岸1本)確認された。また評点4の「生育状態が著しく不良」と判定された本数も昨年の14→18本に増加した。さらには幹や大枝が空洞化し、倒壊の恐れのある危険木も数本出てきており、衰退は確実に継続している。ただ今年は葉の食害やコシカシバの被害といった病虫害は殆ど見られず、キノコの被害も少ないように感じた。

以下に今回の調査のトピックス写真を列挙する。



折れた大枝が引っ掛かり
危険(＃421、左岸)



折れた大枝が垂れ下り危険(＃434、左岸)



葛のツルが巻付き、桜樹が全く見えない（#KN8、#KN9 右岸）



幹に空洞、倒壊の危険あり（#600、#638 右岸）



若木にもひこばえが多数出ており処理が必要
（#KN2～9、写真は#KN4, 5 右岸）

最後に今回調査に初参加された小林まさきさんの感想：

お天気にも恵まれて、スムーズに調査を実施することができました。手をかけた桜とそうでないものの差は歴然としており、生き物であることを改めて実感したのと同時に、限られる工数と予算を効率よく活かせるよう、都や市との調整が欠かせない事を再確認いたしました。

以上